

向学館通信

2005・07・26

お知らせ

★漢字検定試験は、8月22日(月)です。

★7月29日～31日、8月14日～17日は連休とさせていただきます。

「授業料免除」の恩典ふえる

この春、早稲田大学は11学部の定員の1%に当たる優秀な91人に4年間の授業料を全額免除する「特別奨学金」を設けると発表しました。有名私立大学でさえ、優秀な学生を確保するために「タダで学んでください」というのですから、私学の多くが影響されることでしょう。

京都近辺でも多くの大学で、こうした「授業料免除」式の奨学制度を行っています。また、高校でも、かなりのところで授業料免除の制度を取り入れて、優秀な生徒を確保しようとしています。

成績が良ければタダ同然で大学を出ることができるという、大変ありがたい制度です。お金がなくても、成績が良ければ大学で学べるわけですから、こういう制度はよく調べて活用してください。これから、もっとチャンスが増える可能性があります。

夏休み・楽しい疑問をもたせるチャンス

子供のころ、縁台にごさを敷いて夏の夜空をながめました。吸い込まれるような深い闇にキラキラと輝く星の多さ、天の川のゆったりした流れ、いつまで見ても飽きない情景でした。「あの星の光は何万年もかかって地球に届くんだよ」と大人の人から教わりました。「えっ、何万年?」。私は、何キロも先の家の明かりなどの光は見えない、ということを知っていました。だから、何万年もかかるほど遠い遠いところの光が「見える」ということに本当に驚きました。なぜ見えるんだ、どんな大きな光の玉なんだろう、と、しばらくそんなことばかり考えていたことを思い出しました。

こうしたことがあって、私は、理科の「天体」や「地球」の勉強は教科書だけではものたりず、いろんな本を読みました。

以上は、私(石川)のささやかな経験です。勉強が好きになるには、疑問を抱くことが大事だと思います。疑問も持たず、ただ教わることを覚えるだけ、というのでは、いつか勉強嫌いになります。最近のいろんな学力調査で「理科に弱い日本の子」という結果が国際比較のなかで明らかになっています。

お父さん、お母さん、夏休みにご家族で、子供たちに本当の疑問や本当の感動を与える機会を作ってあげてほしいと思います。

本を読みましよう(厚めの本を5冊以上)

中学生・高校生で、人の話を聞いてほとんど意味がわからないという人がかなりの割合でいるように思います。たいてい、分かった顔をしているので、つい分かっていると思って先に進みますが、後でちょっとした質問をして何も分かっていなかったのだと悟られることがよくあります。

日本語は、同じ音で違う意味の言葉が非常に多いのが特徴です。例えば「こうせい」という音であらわされる意味は、構成、公正、校正、攻勢、厚生、後世、更生などです。「そうぞうする」といっても「創造する」なのか「想像する」なのか、前後の文脈がわからないと区別できません。このように漢字の意味がわかっていないと「意味の違い」を知ることが困難です。話のなかで、こうした言葉がたくさん出てくると意味がとりにくくなります。

たくさん本を読んで、言葉の多様な使い方、語彙にふれて、話が聞ける能力を育てていきましょう。夏休みは、こうした勉強に最適の時期です。